

平成 24 年度第 1 回学校協議会実施報告

実施日時：平成 24 年 10 月 26 日（金）午後 5 時～ 7 時

実施場所：本校会議室

学校協議会委員出席者（五十音順）

塩見委員、柴田委員、高松委員、田中委員、田峰委員

事務局出席者

山崎（校長）、繁内（教頭）、中尾（事務長）、鎌田（首席）、藤井（首席）

徳田（教諭・教務主任）、田村（教諭・生徒指導主事）、常盤井（教諭・進路指導主事）

水野（養護教諭・保健主事）

次第

校長挨拶

学校協議会実施要項確認

本年度協議会委員の紹介

会長の選出

本校の現状報告（藤井、常盤井）

保護者からの意見について

質疑・応答

次回開催日程について

内容

<挨拶>

校長より、挨拶の中で条例の関係で、この時期に第 1 回学校協議会の開催となったことを説明。

<会長選出>

会長は塩見委員、会長代理は高松委員に決定。

<現状報告>

校長より、学校経営計画について説明。特に 24 年度の教育目標として、

1、生徒の学力・人間力を伸ばす。

事例：田植え体験（生命・エコロジーエリア）、学習発表会及び卒展（つばさコレクション）

2、学校の活力を増す。

事例：あいさつ運動、ボランティア活動（東北震災復興支援）、クラブ活動

3、力を合わせた学校づくり。

事例：情報共有（連絡会、共生推進教室設置準備）

藤井より、本校創立以来の生徒指導のまとめを報告。

「頭髪・服装指導、盗難防止の取組み」

常盤井より、24 年 3 月卒業生（3 期生）の進路状況と在校生の学力状況

<保護者からの意見>

今回は出ていないことを報告

<質疑・応答、意見>

「グループワークについて」

委員：人間力を伸ばす話が出たが、グループワークを積極的に取り入れているか。

事務局：エリアなどの実習科目は当然取り入れているが、一般の体育でも生徒をチームに分け、責任者を決めて授業を計

画的に進めるような授業を取り入れている。意欲のある生徒がリーダーとなり、授業が展開している。チームリーダーにノートをつけさせ、教員との連携も取らせている。今までの体育の授業のように一斉授業を教員の指示通りにやっているのとはずいぶん違う。そのほかグループワークは、家庭科や総合的な学習の時間などにも行っている。

「学力向上について」

委員： 私は子ども対象の寺子屋をやっているが、親の本音はしつけよりも学力アップだ。つばさ高校では、学び直しの取組みとともに、勉強のできる子はどんどん伸ばしてやることも大事だと思う。

事務局： 学力の高い生徒でも、「欲がない」生徒もあり、上位の学校を目指さず、これでいいと AO 入試などに逃げるケースも見受けられる。学校の中に少しでも上をめざしてがんばろうという雰囲気欠けているのが改善すべき点の一つと認識している。

クラスでは勉強のできる生徒が浮くことがあるが、学び探究エリアに勉強好きが集まる傾向があるので、エリアの時間に本当に勉強の話ができる。特に理系の生徒の場合はそうだ。そういう意味でエリアの授業がよい効果をもたらしている。

委員： そのような生徒を少しでも増やすようにしてほしい。すそ野広がれば山高しというが、これからの5年が楽しみ。つばさの偏差値が上がるのではないかな。

事務局： 講習を各学年が実施するようになったが、まだ自分から進んで参加する生徒は一部である。教員がひっぱることが大事だと認識している。

委員： これからは、塾関係者とも関わりを持ち、中学生保護者向きにできる生徒をもっと伸ばす話をするのがいいと思う。

「勉強のモチベーションアップについて」

委員： この夏、大阪の高校生4人をタイへ連れて行って、現地の高校生と交流させた。そのうち1名はつばさの生徒。4人はもっと英語を勉強したいとやる気が出てきた。モチベーションが上がった。つばさの「アジアの文化」でタイの高校生とビデオレターを実施しているが、相手のことを思ってビデオを撮る実体験からやる気を引き出すことができると思う。そのあたり教員の立場からどう思うか。

事務局： 現状、例えば進路行事で刺激になることを学べば、その時はやろうかなと思っても、実際の行動になかなか結び付かない。今後とも、体験を勉強につなぐ起爆剤にするため、繰り返しいろいろと体験活動を行っていく。普通科総合選択制の特徴はいろいろな興味・関心を引くエリア科目にある。これによって生徒を勉強に向かわせるのが学校設置のコンセプト。

「進路行事の一例について」

事務局： 1学期末に進学希望者対象に大学見学バスツアーを実施したが、興味・関心を持って参加する生徒もいれば、中には目的意識を持って参加していない生徒もいて残念だ。

委員： その大学が行きたい大学であるのなら、押してでも連れて行くのがいいと思う。そうすればよりイメージがはっきりする。例えば、大学入試センター試験の過去問をやったり、塾へ通うようになったりして、その大学に合格したいと努力するようになる。

「大学が欲しい人材について」

委員： わたしはいま短期大学で幼児教育を教えているが、他県の4年制大学にも教えに行っている。比較してみると、短大の学生の方が伸びしろがあると思う。4年制大学の学生は燃え尽きている子がいるが、短大にはいない。「人間力」は企業も求めている。自分で考えて行動できる力やコミュニケーション能力が必要だが、そのような能力に欠ける学生もいる。いろいろなタイプの学生がいるので、タイプに合った学習システムの構築が必要だ。つばさ高校がめざしている「人間力」を伸ばす取り組みについては、是非ともがんばってほしい。

また、問題解決学習で、つぶれたトースターの直し方を考えさせると、いろいろアイデアが出る学生と、そのようなことが不得意の学生がいる。そのような学生でも、与えられたことはきちんとこなしていけるかもしれない。大人のぬり絵を見本通り塗ることでうれしさを感じる人もいる。タイプ別学習プログラムについて、今後情報提供してもよい。

事務局： タイプ別学習プログラムについて、教えていただければと思います。

< 次回の日程 >

25年1月実施の予定で、年内に日程調整することになる。